

富士川游先生を想う

山形 徹 一

東北帝大医学部では、特殊講義として医学史が、隔年毎に二学期に行われていた。

第一回は昭和七年十月、第二回は昭和九年十月で、富士川先生が毎週月曜日に仙台まで来て講義をして下さった。昭和七年四月東北帝大医学部に入学していた私は、喜んで出席した。『日本医学史綱要』がテキストとして使用された。

この講義が機縁となつて、東北帝大医学史同好会が結成され、私は学生会員の一人となった。昭和九年十月の時は、医学史料展覧会が併設され、先生所蔵の史料を見せて戴いた。この時は、藤波剛一先生と大鳥蘭三郎先生とが同行された。医学史講義は、昭和十一年、十三年が藤波剛一先生、昭和十五年が山崎佐先生が受け継がれたが、昭和十七年と十九年は、東北帝大黒川内科の助教授の私が講義をさせられ、終戦後はなくなった。私は医学史の講義の時に、富士川先生の『日本医学史』や『日本疾病史』を参照して、その学殖の広さに唯々感激したものであった。

本年は先生逝去後五十年目にあたるという。心から御冥福を祈る次第である。

(日本医学史学会名誉会員)